

# ちた歩記

あるき



大府市長草町のアマチュアカメラマン、金井宣夫さん(ハシ)が昨年十月下旬に地元の長草大池でキツネの撮影に成功した話題を先月三十一日の夕刊で紹介したところ、近隣市町での目撃情報がたくさん寄せられています。

知多半島のキツネの生態に詳しい日本福祉大の福田秀志教授によれば、人間に観察されなかっただけで、これまでもキツネが大府市

## キツネ

内に立ち寄っていた可能性はある、と言います。

金井さんの場合、超望遠レンズできちんとキツネの姿を捉えており、縄張り内で生活している発情期前の撮影時期、縄張りが確認されていなかった半島最北部の大府市で最初の事例、ということ得意義があると言えます。

一度は半島から姿を消したキツネの回復を喜んでばかりはいられません。福田教授は「都市部で増えると、ロードキル(交通事故)が発生するため、保全のためには対策が必要」と、次の局面への課題を指摘しています。(栗山真寛)